

東京府東京
清洲郡上野

原籍 麹町區一番町三十番地

金子堅太郎

嘉永六年癸丑二月

明治三年庚午十二月

一東京表へ遊學トシテ差遣ノ事

福岡藩

同四年癸未十月

一英國留學差遣ノ事

文部省

同十年六月廿八日

一法律學士ノ稱號ヲ授ク

米國大學校

同九月廿二日

東京府東京
清洲郡上野
院

一歸朝

同十一年一月十九日

一東京大學豫備門教員ノ屬ニ月俸金九拾圓交付

ノ事

文部省

同十二年六月十日

一自今月俸金九拾圓交付ノ事

同上

同十三年一月廿六日

一備申付候事

元老院

但月俸百圓支給ノ事

一第二課附屬申付ノ事

同上

三十七

一第三課附屬の事務

同上

四月廿一日

一任元老院権文書記官

四月廿二日

一第二課事務申付の事

元老院

六月八日

一叙正六位

同十四年三月廿一日

一任元老院文書記官

三月廿二日

攝政院

一調査課長申付の事

元老院

四月廿五日

一叙従六位

十二月廿一日

一任元老院権大文書記官

同十五年二月十七日

一叙正六位

同十六年四月十九日

一議官渡邊清地方巡察使被仰付の付隨行

被仰付の事

元老院

同十七年二月廿八日

一 本邦法令教授依頼の事

東京師範学校

四月十五日

一 任太政官権大書記官兼元老院権大書記官

一 制度取調局御用掛兼勤務被仰付の事

太政官

四月十八日

一 調査課勤務申付の事

元老院

六月廿五日

一 任太政官大書記官

兼元老院権大書記官の故

七月廿四日

樞密院

一 叙従五位

同十八年二月廿二日

一 兼任参事院議官補

兼元老院権大書記官の故

一 四等官相替目録書奉山下賜の事

太政官

二月廿六日

一 内務部勤務被仰付の事

参事院

二月十四日

一 兼任元老院大書記官

兼参事院議官補の故

三月四日

一 第一回中學校師範學校免許學力試験委

教員

負屬任事

文部省

七月九日

一御用有之北海道各縣へ出張被仰付候事

大政官

十二月廿二日

廢本官并参事院

十二月廿三日

一任内閣總理大臣秘書官

十二月廿八日

一臨時官制審査委員被仰付

内閣

樞密院

同十九年一月十五日

一秘書官手當トシテ一月金五拾山下賜口達

内閣

四月十日

一叙奏任官一等賜上級俸

中

同廿年五月廿日

一藤原内閣總理大臣近縣へ出張被仰付候事

命ス

中

八月二日

一伊藤内閣總理大臣近縣へ出張被仰付候事

ヲ命ス

内閣

十二月十九日

一 文官普通試験審査員長ヲ命ス

全上

廿一年四月廿八日

一 置樞密院次官

四月廿日

一 任樞密院書記官

一 叙奏任官一等賜上級俸

内閣

一 兼任樞密院議長秘書官

一 叙奏任官一等

全上

樞密院

廿二年三月五日

一 叙勳五等賜瑞寶章

六月十日

一 御用有之歐米各國へ被差遣

内閣

一 免兼官

全上

廿三年五月二十六日

一 任貴族院書記官長

一 叙勅任官二等賜下級俸

内閣

六月六日

一 帰朝

六月十二日

一叙従四位

九月十九日

一貴族院令第一條四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス
内閣

十二月廿六日

一叙勲四等賜瑞宝章

廿四年三月十八日

一賜旭日小綬章

八月十六日

一官等俸給令ヲ廢シ俸給制ニ改ム

樞密院

十二月十七日

一願ニ依リ貴族院議員ヲ免ス
内閣

十二月十五日

一臨時博覧会事務向評議員被仰付
全上

十二月十七日

一露國皇太子遭難事件ニ関シ勅励ニ付三百圓ヲ賞

与ス

全上

廿五年一月廿五日

一當學期中ノ帝國憲法ノ講義ヲ以テ報酬トシテ三

百圓ヲ贈与ス

高小師範学校

三月三十日

一帝國憲法講義ノ囑托ヲ解ク

全上

六月廿二日

一來九月初旬瑞西ニ於テ開設ノ國際公法會參列
ノ為賜暇願ノ件認可ス

内閣

十一月六日

一歸朝

十一月六日

一廢文武高等官官職等級表

大六年七月三日

樞密院

一法典調査會査定委員被仰付

内閣

九月十九日

一陞叙高等官一等

全上

十一月九日

一職務勉勵ニ付二百五十四ヲ給与ス

全上

十二月十五日

一手當二百六五四下賜

全上

大七年一月廿一日

一任農商務次官

叙高等官一等

内閣

二月三日

一農商務省列品所委員長ヲ命ス 農商務省

一農商務省會計出納下検査官ヲ命ス 全 上

二月六日

一第四回内閣勸業博覧會事務官長被仰付

内閣

一臨時製鉄事業調査委員會長被仰付 全 上

三月十六日

一改法典調査會規則

三月卅一日

樞密院

一法典調査會委員被仰付

内閣

廿七年
四月四日

一臨時製鉄事業調査委員會長被免 全 上

四月十八日

一貴族院令事一條四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス

全 上

四月廿七日

一宮城縣下ノ出張ヲ命ス 農商務省

五月八日

一農商務省所管事務政府委員被仰付 内閣

五月十四日

一高等商業學校商議委員ヲ囑托ス

又部省

六月十九日

一叙勲三等賜瑞宝章

六月六日

一法典調査會委員手當トシテ金百七十五圓下賜

内閣

九月三日

一補高等捕獲審檢所檢察官

全上

九月六七日

樞密院

一手當金百七十五圓下賜

全上

廿七年
十一月一日

一群馬縣下、出張ヲ命ス

農商務省

十二月十七日

一手當金百七十五圓下賜

内閣

十二月九三日

一農商務省所管事務政府委員被仰付 全上

十二月六日

一京都府へ出張ヲ命ス

第四回内閣勸業博覧會事務局

大正八年三月十二日

一京都本局出張所へ出張ノ命ス 全上

三月十六日

一鑛道會議々員被仰付 内閣

三月廿二日

一法典調査会委員手當トシテ金百七拾五圓下賜 全上

五月十五日

一製鐵事業調査會委員長被仰付 全上

六月廿二日

一法典調査會委員手當トシテ金百七拾五圓下賜 全上

樞密院

一文官高等試験臨時委員被仰付 全上

廿八年七月廿四日

一京都本局出張所へ出張ノ命ス 内閣
事務局長事務局

八月廿日

一馬込調査會會長被仰付 内閣

九月廿日

一叙正四位

九月廿一日

一法典調査會委員手當金百七十五圓下賜 内閣

九月廿五日

一愛知靜岡兩縣下へ出張ノ命ス 農商務省

十月一日

一免高等捕獲審檢所檢察官 内閣

十一月十八日

一明治廿七八年從軍記章條例ニ依リ陸軍大臣ノ奏請ヲ

允シ明治廿八年十月八日初定ノ從軍記章ヲ授与ス 官廳局

十一月廿二日

一文官高等試験臨時委員被免 内閣

十一月廿六日

一神奈川愛知岐阜ノ三縣下へ出張ノ命ス 農商務省

樞密院

廿八年
十二月十九日

一農商務省所管事務政府委員被仰付 内閣

十二月廿五日

一神奈川縣下へ出張ノ命ス 農商務省

十二月二十日

一法典調査會委員手当トシテ金百七十五圓下賜 内閣

大九年三月廿五日

一法典調査會委員手当トシテ金百七十五圓下賜 内閣

三月廿八日

一叙勲ニ等授旭日重光章 兼四内閣勅業博覽會事務長官

四月一日

一製鍊事業調査会委員長被免

内閣

四月八日

一左ノ府縣下へ出張ヲ命ス

農商務省

京都又及奈良福岡

四月廿三日

一第二回水産博覧会事務官長被仰付

内閣

五月十三日

一臨時博覧会事務官長被仰付

全上

六月六日

樞密院

一農商工高等會議副議長被仰付

全上

附九年
六月十五日

一明治廿七八年事件ノ功ニ依リ金二百圓ノ賜ヲ

賞勲局

六月廿五日

一法典調査会委員手当金百七十五圓下賜内閣

九月廿三日

一全上

全上

十月七日

一三重縣下へ出張ヲ命ス

農商務省

十月廿八日

一臨時政務調査委員被仰付

内閣

十一月十二日

一條約実施準備委員被仰付

全上

十二月八日

一日本勸業銀行設立委員被仰付

全上

十二月十九日

一農商務省所管事務政府委員被仰付

全上

十二月十八日

一法典調査會委員手当金百拾五圓下賜

全上

(一) 26 25

廿九年
十二月廿六日

一神奈川縣下へ出張命令

臨時政務會
事務局

三十年四月十日

一依願免本官

内閣

前 三月十五日

一法典調査會委員手当金百七十五圓下賜

全上

五月卅一日

一特旨ヲ以テ位一級被進

宮内省

一叙後三位

六月一日

樞密院

一解農商工高等會議副議長

右 六月三十日

一日本勸業銀行設立委員被免

内閣

前 六月廿三日

一法典調査會委員手当金百七十五円下賜

内閣

九月十一日

一法典調査會委員手当金百七十五円下賜

同上

十二月九日

一同上

同上

三十三年三月九日

樞密院

一同上

内閣

一同上

四月廿六日

一任農商務大臣

五月十日

一叙正三位

六月廿九日

二法典調査會委員職ヲ奉ニ盡力不少ニ付銀五

一俎ヲ賜フ

賞典局

六月三十日

一依願免本官

内閣

六月十五日

一法典調査會委員手当金百七十五円下賜

今上

七月十八日

一法典調査會委員被免

今上

卅三年五月九日

一特旨ヲ以テ華族ニ被列

宮内省

十月十九日

一依勳功特授男爵

樞密院

一任司法大臣

贈

一法典調査會副總裁被仰付

内閣

卅四年六月二日

一依願免本官

今上

六月六日

一依願法典調査會副總裁被免

今上

卅九年一月九日

一任樞密顧問官

今上

一 願三依り貴族院議員ヲ免ス 内閣

今 年四月一日

一 叙勲一等授旭日大綬章

一 明治三十七八年事件ノ功ニ依リ勲一等旭日大綬章及金

三千圓ヲ授テ賜フ

賞勲局

今 四十年八月三日

一 日本大博覽會會長被仰付

内閣

今 年九月二十三日

一 依勲功特陞授子爵

今 四十年九月四日

樞密院

一 依願日本大博覽會會長被免

内閣

四 十三年四月一日

一 改高等官官等俸給令 年俸五千圓

同 四十四年五月十日

一 維新史料編纂會委員被仰付

内閣

同 四十五年四月二十日

一 叙從二位

大 正元明治四十五年七月三十日

一 改元

同 年八月一日

副總裁被仰付
委員被仰付

一 韓國併合記念章授與

賞 勳 局

同 三年九月二十九日

一 維新史料編纂會官制第三條ニ依リ勅旨ヲ以テ維新史

料編纂會副總裁被仰付

内 閣

同 四年七月七日

一 臨時編修局副總裁被仰付

内 省

同 年十月十六日

一 維新史料編纂會官制第三條ニ依リ勅旨ヲ以テ維新

史料編纂會總裁被仰付

内 閣

同 五年四月一日

樞 密 院

一 金杯一組ヲ賜フ

賞 勳 局

大正九年八月十八日

一 改高專官官等俸給令 八月分以降
年俸六千五百圓

同 年九月七日

一 對獨平和條約締結ニ大正四年乃至九年事件ノ

功ニ依リ金杯一組ヲ賜フ

賞 勳 局

同 年十月十五日

一 補議定官

内 閣

同 十一年一月十日

一 七十歳ノ高齡ニ付御紋付銀杯並ニ酒肴料ヲ下賜ヒタリ

同 年四月廿五日

一臨時帝室編修局總裁被仰付

宮内省

十五年十二月廿五日

改元

昭和二年十二月十五日

一敘正二位

口三年十一月十日

一授旭日桐花大授章

旭第百四十六号

一 大禮記念章授與

口六年六月下

費魚局
考魚局

樞密院

一 高等官等俸修令

年俸五八〇〇円

昭和七年一月十日

一 六十歳ノ高齢ニ付御紋付銀盃並ニ酒肴料ノ下賜セラル

一 老年者特旨ヲ以テ官中杖ヲ差許スル

昭和八年九月三十日

一 臨時帝室編修局廢止

昭和九年一月四日

一 依重功特授伯爵

口 七月一日

一 公利明治天皇御紀編修委員會顧問被仰付

宮内省

四月廿五日
昭和九年乃五年
事奉、衣心御依
リ金杯相賜
賞給司

三月一日、樞密院編修局ノ廢止及御用モノノ見直し等

考魚局

昭和十二年十二月二十七日

一 金杯壹箇ヲ賜フ

賞勳局

昭和十三年七月九日

一 滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳一位龍光大佐章ノ複製
シ及ヒ佩用スルヲ先許セラル

賞勳局

昭和十五年八月十五日

一 紀元二千五百年祝典記念章授與

賞勳局

昭和十七年一月十五日

一 九十歳ノ高齡ニ付御紋付木盃御絹紐、酒肴料ヲ下賜セラル

昭和十七年一月十五日

樞密院

一 牧従一位

特旨ヲ以テ位一級特進

一 敎大勲位後菊花大佐章

一 農去

同 五月十九日

一 十九日午前十一時勅使ヲ具邸ニ差遣ハサレ左ノ御沙汰

ト共ニ祭資、幣帛、供物、花ヲ賜ヒ訖テ焼香セシメラ

レタリ

志ハ經綸ニ存シ識ハ東西ニ達ス不磨ノ大典力

ヲ草創ニ竭シ非常ノ危局衝ヲ尊俎ニ折ク再ヒ

内閣ニ列シ久シク樞府ニ班ス幽光ヲ新史ニ發

キ聖徳ヲ御紀ニ頌ス勳勞並ヒ隆ニ齒徳共
ニ高シ遽ニ溢亡ヲ聞ク曷ソ軫悼ニ勝ヘム
宜シク使ヲ遣ハシ賻ヲ賜ヒ以テ弔慰ス
ヘシ

樞密院